issa | EXCELLENCE IN SOCIAL SECURITY

年次報告
2020年/2021年

パンデミック下の会員を支援

ISSAの使命

世界規模での社会保障を推進

国際社会保障協会（ISSA）は、社会保障機関や政府の担当部門を繋ぐ、世界有数の国際機関です。ISSA は、優れた社会保障運営支援センターの事業の一環として、専門的なガイドラインと能力開発の機会を世界中の ISSA 加盟機関に提供し、社会保障の重要課題に対する革新的ソリューションの提案、独自の国際データベース共有、そしてハイレベルな地域・国際イベントも開催し、優れた社会保障を推進しています。

ISSA は、世界中の加盟機関のダイナミックな社会保障制度や政策の展開をサポートすべく、国際労働機関（ILO）後援のもと1927 年に設立されました。

写真：ISSA; iStock; Adobe Stock; ESDC Canada; G20. © International Social Security Association, 2021.

目　次

04 会長からのメッセージ
ヨアヒム・ブロイアー博士

06 インタビュー
マルセロ・アビラミア・カエタノ事務総長

08 新型コロナウイルス感染症
コロナウイルスとの戦い

14 世界の ISSA
地域組織とホスト機関

16 特集
社会保障におけるデジタルトランスフォーメーションの推進

18 バーチャル化
ISSA オンラインイベントと活動

20 特集
医療・衛生、介護ケア、リハビリテーション

22 グッドプラクティス賞コンテストとバーチャルサミット
南北アメリカ地域における優れた功績の称賛

24 労働安全衛生
コロナ禍での予防/ビジョンゼロ

26 インタビュー
フランスの新会員およびカリブ海地域新フォーカルポイント

28 ISSA
組織体制とガバナンス

30 ISSA のナレッジとサービス強化

会長からのメッセージ

新型コロナウイルスの世界的大流行の発生から 1 年以上が経過した現在も、世界は過去最大の健康、社会、経済的な危機に直面しています。ISSA は、世界中で多くの人命が失われ、人々が苦しい生活を送っていることを深く憂慮しています。しかし、社会保障機関の対応がなければ、新型コロナウイルスの被害はさらに甚大なものになっていたことでしょう。

社会保障機関：復旧の柱

社会保障は、公衆衛生対策を促進し、雇用を保護し、貧困対策を行うなど、危機に対処する政府の行動の中心となってきました。社会保障制度の力と俊敏性は、各国政府が実施する対応を効果的にサポートし、国家の復旧を支える重要な柱となりました。このような状況において、未曾有の危機を乗り切るべく奮闘する会員を支援するためにナレッジや情報交換の機会を設けることは、ISSA に対する要望であっただけでなく、ISSA の義務でもありました。

ISSA はコロナウイルス感染症対応モニターを通じ、世界各国の社会・経済的危機を緩和する上での社会保障の重要性を、詳細に記録してきました。各地域の ISSA 会員は、約 80 回実施されたウェビナーを通じ、それぞれの課題、グッドプラクティス、イノベーションを仲間と共有してきました。また、ISSA は 40 本以上の分析記事を発表し、各国の広範な対策、戦略やアプローチに関する最新情報を提供してきました。危機を乗り越えた先のビジョンが徐々に見え始めた今、社会保障機関が包括的な復旧に貢献できるよう、ISSA は支援活動を強化していきます。

社会保障機関がこのような課題にどう取り組んできたか、ということは、強く印象に残りました。そのプレッシャーと期待は予想以上に大きいものでした。しかし、社会保障機関は通常の任務以上の成果を出してきました。新しいプログラムやプロセスの導入、新たな集団を適用するための規模拡大、また、革新的なサービス提供やデジタル化など、さまざまな対応を行いました。その一方で、在宅勤務やデジタル連携など、働き方の見直しや再編も行いました。

「すべての社会保障機関と職員の皆様に感謝します。」

この困難な時期にあって、ISSA 事務局は、会員同士の共有と学習を促進するだけでなく、社会保障を国際的なアジェンダの最前線に位置付けようと取り組んできました。国際労働機関（ILO）との提携を今後の国際的な取り組みにおける礎石とし、我々はG20 と BRICS の協力関係でも多大な貢献をしてきました。また、経済協力開発機構（OECD）や世界保健機関（WHO）との関係を強化するとともに、国連大学（UNU）や英国安全衛生協会（IOSH）と新たなパートナーシップを結びました。

ISSA 会長に就任して 1 年になりますが、事務局や会員の皆様と直接お会いする機会が一度もないとは、当初想像もしていませんでした。通常の状況であれば、我々の会議やイベントは、組織が風通しの良い状態で交流を行うことで、グッドプラクティスを共有し、共通の理解が生まれ、より良いアイデアが育まれる場となります。だからこそ、この 1 年間、画面越しのバーチャルミーティングのみでも、全員の士気を損なうことなく、鼓舞し続けることができたと、安堵を覚えています。この困難な時期に、最大限の力を尽くし、積極的に共有していただいたすべての加盟機関に感謝します。

ISSA 会長
ヨアヒム・ブロイアー博士

事務総長インタビュー

ISSA のマルセロ・アビラミア・カエタノ事務総長は、社会保障機関が迅速なスピードで、改革、革新、任務遂行を進めてきたこの1年の取り組みを振り返ります。ISSA は、この期間の経験を基盤とし、今後の計画を立てていくことになります。

変革の力で新型コロナウイルスに立ち向かう

組織として、またコミュニティとして、ISSA にとってこの 1 年はどのような年でしたか。

今年は、ISSA という組織にとっても、加盟機関にとっても、苦しい 1 年でした。新型コロナウイルスは、あらゆる人の生活に影響を及ぼしました。組織、職員、同僚、そして一般市民まで、すべての人の生活を変えてしまいました。社会保障給付への需要が爆発的に増加する一方で、事務処理を受け持つ各機関は、ロックダウン、ソーシャルディスタンス、テレワークにも対応しなければなりませんでした。もちろん、我々も例外ではありません。2020年3月以降、ISSA の職員は在宅での勤務がメインとなりました。幸いなことに、デジタルツールのおかげで、情報交換、共同作業、重要成果の達成が可能になっています。

ISSA にとって最も重要な展開やイノベーションは何でしたか。

以前は、ほとんどの会議やイベントが対面式でした。それが昨年からすべてがバーチャルになりました。こうしたシステムの転換は、2020年初頭の数週間で整備されましたが、これほど長引くことになるとは誰も予想していませんでした。しかし、2020年は約 80 件ものバーチャルイベントを開催できました。今年は、イベントの数も質もさらに充実したものになりそうです。毎週開催しているウェビナーや分析記事は大きな成果をあげており、これまで接触する機会のなかった多くの人々にも届き、関心を集めています。また、コロナ禍に対する社会保障の対応を追跡する、コロナウイルス感染症対応モニターも重要な役割を果たしています。質、量ともにすぐれた情報を会員の皆さんに提供できたことを嬉しく思います。

ISSA 事務総長
マルセロ・アビラミア・カエタノ

この期間中、ISSA がコロナウイルス以外で優先的に取り組んできたことは何ですか。

最も力を入れてきたのは、新型コロナウイルスに関する問題ですが、ISSA が設定した2020年から2022年までの優先項目に準じて、他の重要なテーマへ徐々に移行する体制を整えることができました。2019年末、ISSAの優先課題として、社会保障運営と管理の未来、高齢化社会の高まるニーズへの対応、変化する世界の中での社会保障適用、包括的成長と社会連帯を推進する社会保障の役割、が決まりました。コロナウイルスへの社会保障の対策は、長期的に効果をもたらす社会変化の促進剤のようなものとも見ることができます。特に今考えているのは、雇用市場の変化とデジタル化、そして新たな層を対象とする新しいサービスモデルの確立です。

2020年から2022年までの 3 年計画で見ると、半分が過ぎました。ISSA ではこれからの後半について、どのように考えていますか。

前半については、予想と大きく異なるものになりました。この苦しい時代においても、ISSA はグローバルな社会保障の取り組みを支援することができたと思います。今後は、徐々に対面イベントを再開し、3年計画の活動を実施していきますが、コロナ危機への対応が最優先課題であることは変わらないでしょう。コロナ危機は長期的に見て、雇用市場、社会保障財政や適用にどのような影響を与えるのか、社会保障は、どのように包括的な復旧に貢献するのか、今後コロナ危機で浮き彫りになった社会保障の格差をどのように埋めていくのか、今後の社会保障の復旧力を高めるための教訓とは何か、こうした疑問に答えるためには、更に深く考える必要があります。2022年末に開催される世界社会保障フォーラム(WSSF)で適切な対策と戦略を発表するためにも、技術・地域関連のイベントで引き続き議論していきたいと思います。この歴史的なイベントで、会員の皆様に直接お会いできるのを楽しみにしています。

2020年10月13日、第 121 回 ISSA 役員会議がバーチャル形式で開催されました。

新型コロナウイルス感染症

社会保障は、新型コロナウイルス感染症対策の中心となるものです。昨年の ISSA の活動は、危機に対応する社会保障機関の支援に重点が置かれていました。

コロナウイルスとの戦い

コロナ禍は、社会のあらゆる面に深刻な影響を与えました。社会保障機関は、一般市民や事業主への社会・経済的影響に対処する行政施策の中心となってきました。同時に、社会保障機関自体も、能力を向上させつつ、サービス提供業務の方法を困難な状況に適応させなければなりませんでした。

ISSA は、コロナウイルス感染症対応モニターを通じて、進捗状況を積極的に追跡、マッピング、分析し、社会保障機関やその職員、専門家のグローバルコミュニティの中で経験とグッドプラクティスの共有を促進してきました。その目的は、危機に対する組織の俊敏な対応と社会保障の危機対応策の効果的実施を支援することでした。

コロナウイルス感染症対応モニター

- 各国の施策
- ニュースモニター
- 分析
- ウェビナー

新型コロナウイルス

コロナウイルスの影響を受けていない国はありません。
世界各国の政府は、この危機を乗り切るため、抜本的な社会・経済的対策を講じています。

各国の対応政策

2020年初頭には、既に世界初の社会保障対応策が確認されています。ISSA では、時短勤務や部分的失業制度の広範囲な活用、疾病手当や家族手当の拡充、社会保障予算の一時的な融通や免除の利用などを分析しました。

コロナ禍が長期に渡り、さまざまな国や地域で感染拡大が発生する中、ISSA は、対策がどのように拡大・改正され、新たな対策が導入されたかをモニタリングしました。ロックダウン措置が経済活動や雇用に深刻な影響を与えたのは明らかですが、社会生活が制限されたことで、国民の健康や幸福にも影響が及びました。

最近では、議論のテーマが、緊急事態への対応から、緊急措置の段階的廃止、社会保障財源の確保、適用格差の解消など、危機の長期的な影響への対応に移行しつつあります。ISSA は、包括的な復旧に向けた社会保障の要素を分析し、議論するための適切なプラットフォームの提供を続けます。

社会保障機関の対応

- 医療給付とアクセス
- 疾病手当
- 失業対策
- 雇用維持手当
- 社会的弱者に対する社会保護の緊急措置
- 家族手当
- 保険料納付確保
- 職業上の疾病と予防

分析

世界、国、地域における社会保障機関の新型コロナウイルス感染症対策に関する動向分析は、ISSA のウェブサイトでご覧いただけます。

各国施策モニター

ISSA は、206 の国と地域における1,600 以上の社会保障施策をマッピングしています。

www.issa.int/coronavirus

新型コロナウイルス

新型コロナウイルス感染拡大の危機に際し、社会保障機関は目覚ましい働きを見せました。爆発的な需要に対応すると同時に、職場の安全衛生問題への対応、働き方の見直し、サービス提供における改革が求められました。

課題への取り組み

各国政府が迅速に行動を起こし、社会保障をコロナ対策の中心に据えると、社会保障機関は突如として全く新しい現実に直面することになりました。

民間企業と同様に、ロックダウンや新たな安全衛生対策の影響を受けただけでなく、職員や利用者の間には、ソーシャルディスタンスを設ける必要が出てきました。オフィスは閉鎖されるか、出入りが制限されるようになりました。部分的、あるいは完全なテレワーク制度の導入が必要になり、それは今も続いています。また

危機対策の成功ポイント

- 社会保障制度の継続性確保
- 団結力を高める断固としたリーダーシップ
- 完璧性よりスピード重視
- シンプルさ即ちスピード
- 組織間の連携
- イノベーションを実現するデジタルスキル

その一方で、事業継続の確保が求められており、政府や国民からの急増する新たな需要に対応するため、サービスの拡充を実施しました。

そのためには、働き方改革、職員向けのリモート機器やデジタルアクセス、利用者との新しいコミュニケーション方法が必要でした。社会保障機関は、柔軟性と俊敏性、イノベーションとデジタル化を促す強い能力を発揮し、この課題に取り組みました。さまざまな意味において、この危機から、社会保障における人間とデジタルの新しいモデルが生まれたのです。

今後も続きうる変化

- テレワーク：柔軟性の向上と在宅勤務
- バーチャルコラボレーション：デジタルプラットフォームを活用した会議や共同作業
- 電子サービス：サービスのオンラインへの移行
- 利用者中心のアプローチ：新しいアプローチで利用者の需要に対応

新型コロナウイルス

ISSA は、社会保障機関のコロナ対策関連データの収集とナレッジ共有を通じ、会員のために絶えず努力を重ねてきました。

ISSA 会員と各国の対策を支援

コロナ禍により、迅速な組織再編、技術革新、デジタル能力の拡充、活動計画の再考を余儀なくされたのは、加盟機関だけでなく、ISSAも同様でした。コロナウイルス感染症対応モニターは、ISSA 会員をサポートする中心的なツールとなっています。

この 1 年は、さまざまな意味において、当協会と会員との距離が縮まった年になりました。オンラインイベントを通じて、ISSA は会員のニーズに迅速に対応し、会員との交流の機会を増やし、多くの新規参加者を惹きつけました。ウェビナーは、最新の展開や実践を会員にいち早く伝えるチャネルになりました。短時間のオンラインセッションは、メンバーが同じ危機に直面しながらも、グッドプラクティスを共有し、お互いにインスピレーションを得る機会でした。

ウェビナー

ISSA は、2020年4月以降、コロナ関連ウェビナーを 47 回開催し、何千人もの加盟機関の職員が参加しました。

新型コロナウイルスのニュースモニターと各国対策データベースを毎日更新することで、ISSA 会員は、コロナウイルス対応の動向を広範かつタイムリーに追うことができました。ISSA は、収集したデータやウェビナーで共有された経験を元にした分析記事、また、アフリカと南北アメリカのグッドプラクティス賞コンテストへ応募された取組等をまとめた分析記事を定期的に発表しました。

また、これらの活動を通じてナレッジを蓄積することで、コロナ禍が社会保障にもたらした長期的な影響や教訓を分析することができます。その一環として、事業継続性と復旧力をテーマとした ISSA の新しいガイドラインの準備を進めています。この数か月間実施してきた分析をもとに、データをまとめたものです。

ISSR 特集

「国際社会保障レビュー」第73号、No.3の特集「社会保障、包括的成長、社会的結束」では、コロナ禍における社会保護について報告しています。

新型コロナウイルス

社会保障制度は、新型コロナウイルス対策における基本的な柱として広く認識されています。コロナウイルス感染症対応モニター、ウェビナープログラム、分析やコミュニティの専門知識を活用することで、ISSA は国際レベルにおける役割を強化することができました。特に、ISSA は G20や BRICS 諸国に対して貢献することで、社会保障や組織の能力への十分な投資の重要性を強調しました。

国際社会における社会保障

毎日30億人以上に社会保護を提供する159 か国、318 社会保障機関の経験をもとにしてサービスを実施する国際機関は、他にありません。効果的な社会保障施策や給付を実施できるかどうかは、これらの機関にかかっています。危機に直面することで、国家の社会・経済的な回復力の柱として、社会保障機関の俊敏性と能力が明らかになります。
ISSA は ILO と長年培ってきた関係を基盤に、コロナ禍においても ILO と密接に協力してきました。情報・データベース共有の協定により、ISSA のコロナウイルス感染症対応モニターは ILO の世界社会保護データダッシュボードと連動し、また、新型コロナウイルスに対する社会保護政策関連のオンラインイベントでも相互協力しています。

G20 労働雇用大臣会合（2021年6月）

2020年9月、G20 諸国の労働雇用大臣は、コロナウイルスとの戦いにおける国際協力の役割の重要性を強調し、ISSA、ILO、OECD、世界銀行の貢献を高く評価しました。G20 雇用作業部会の新メンバーとして、ISSA は ILO や OECD とともに、新型コロナウイルスに対する社会保護、さらに社会保護と積極的な労働市場政策の調整に関する共同論文を発表しました。ISSA は、これまで重視されていなかった政策の実施や組織能力への投資の重要性を強調しました。

また、BRICS 諸国（ブラジル、ロシア連邦、インド、中国、南アフリカ）の支援においても、ISSA は ILO と緊密に協力しています。2020年10月、ISSA は第 6 回 BRICS 労働雇用大臣会合に参加し、コロナ禍を起点とする改革、イノベーションや社会保障におけるデジタルソリューション導入の必要性を強調しました。2021年4月には、ISSA-ILO バーチャルリエゾンオフィスによる、BRICS 諸国を対象とした社会保障協定に関するエグゼクティブウェビナーが開催されました。

また、欧州委員会、ユニセフ、国連大学、国際リハビリテーション協会、WHO とのパートナーシップも強化されました。

ISSAは、ウェビナーでこれらの機関のナレッジを会員と共有し、戦略的議論における社会保障機関の役割を強調することができるようになったのです。

ISSA とG20

- **2020年10月**：コロナ禍における社会・経済的影響へ対応する ISSA の役割をG20 が評価
- **2021年2月**：社会保護に関する ISSA、ILO、OECD の共同論文
- **2021年4月**：収入支援と積極的労働市場政策に関する ISSA、ILO、OECD の共同論文
- **2021年6月**：G20 閣僚会議への参加

オックスフォードスーパートラッカー

ISSA のコロナウイルス感染症対応モニターは、国際的なコロナウイルス関連情報を集めた、オックスフォードスーパートラッカーに組み込まれています。

ILO 社会保護ダッシュボード

ISSA のコロナウイルス感染症対応モニターは、ILO の世界社会保護データダッシュボードに取り込まれています。

世界におけるISSA

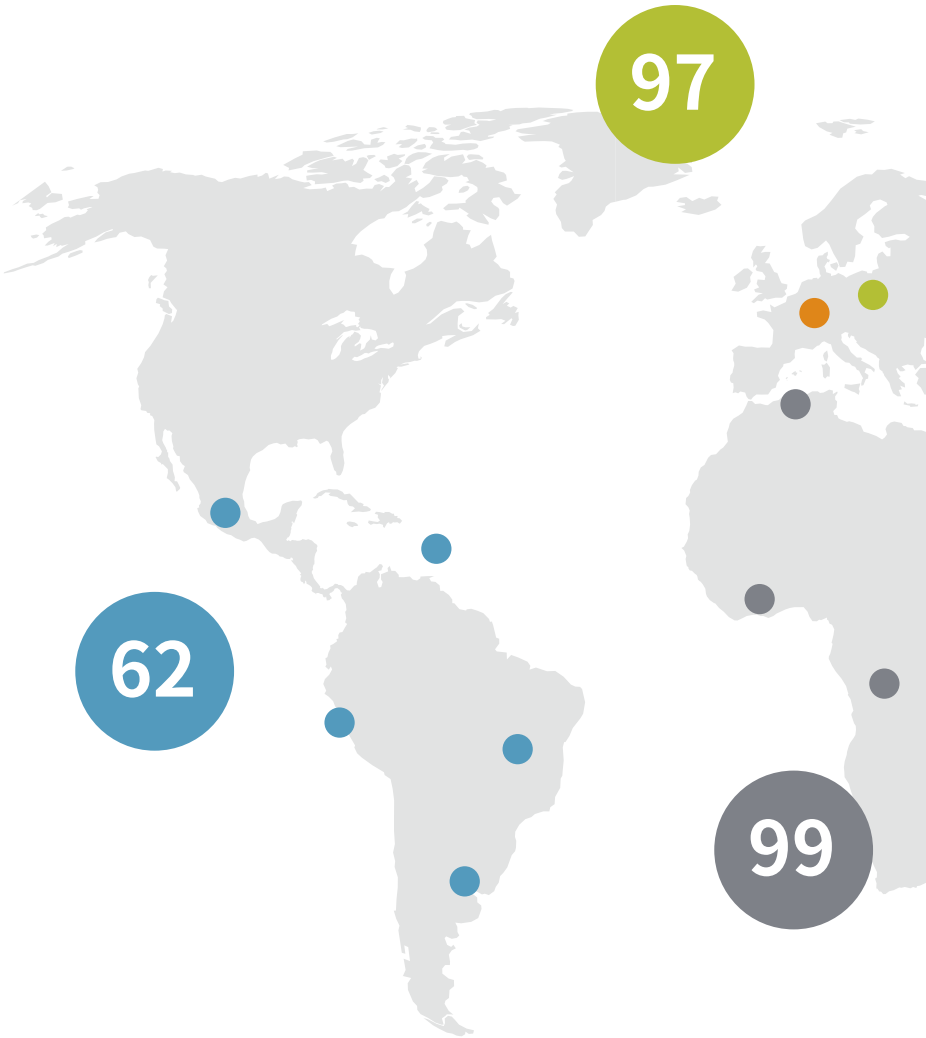
18 の地域組織が、ISSA のサービス提供と社会保障に対する地域協力に重要な役割を果たしています。ISSA 加盟機関が各地域組織の活動拠点となり、専門の地域連絡担当者が配置されています。

159か国　318加盟機関

地域組織は、その地域の加盟機関が表明した優先事項に直接対応する活動を通じて、ISSA の技術プログラムを補完します。コロナ禍という状況を鑑み、昨年はウェビナーを 6 か国語で多数開催しました。会員への影響力を高めつつ、関連性の高い情報を提供することに力を入れました。

2021年3月、ISSAは、セントビンセント及びグレナディーン諸島国民保険機構を拠点とする英語圏カリブ諸国フォーカルポイントを開設しました。

ISSA 事務局
スイス（ジュネーブ）



ISSA 地域組織とホスト機関

アフリカ地域

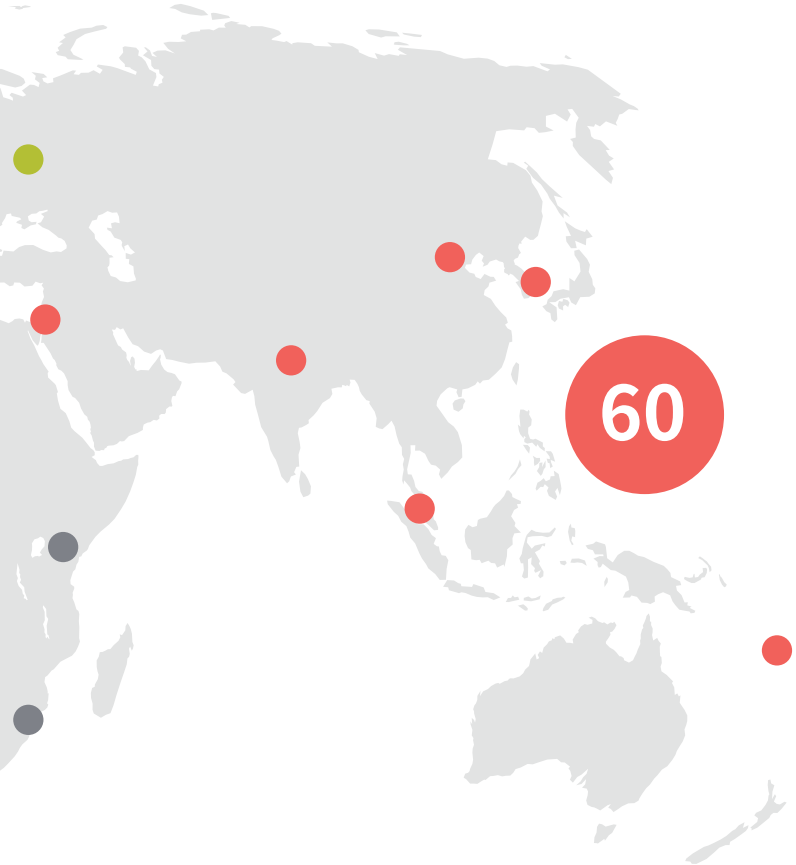
中央アフリカ連絡事務所
国民社会保障基金
コンゴ民主共和国（キンシャサ）

東アフリカフォーカルポイント
東中央アフリカ社会保険協会
ケニア（ナイロビ）

北アフリカ連絡事務所
全国被用者社会保険基金
アルジェリア（アルジェ）

南アフリカ連絡事務所
エスワティニ国民準備基金
エスワティニ（マンジニ）

西アフリカ連絡事務所
国民社会保険基金
コートジボワール（アビジャン）



南北アメリカ地域

アンデス諸国連絡事務所
デラママジステリアル
ペルー（リマ）

北中米連絡事務所
国家被用者社会保障・社会サービス機関
メキシコ（メキシコシティ）

南米コーノスール連絡事務所
国民社会保障機関
アルゼンチン（ブエノスアイレス）

英語圏カリブ諸国フォーカルポイント
国民保険機構
セントビンセント及びグレナディーン諸島
（キングスタウン）

ポルトガル語諸国フォーカルポイント
国家社会保障院
ブラジル（ブラジリア）

アジア太平洋地域

アラブ諸国連絡事務所
社会保障公社
ヨルダン（アンマン）

東アジア連絡事務所
国民医療保険公団
大韓民国（ソウル）

南アジア連絡事務所
被用者国家保険公社
インド（ニューデリー）

東南アジア連絡事務所
社会保障機関
マレーシア（クアラルンプール）

中国加盟機関フォーカルポイント
人的資源社会保障部
中国（北京）

太平洋諸島国フォーカルポイント
フィジー国民準備基金
フィジー（スバ）

ヨーロッパ地域

ISSA ヨーロッパネットワーク
社会保険機構
ポーランド（ワルシャワ）

ユーラシア連絡事務所
ロシア連邦年金基金
ロシア連邦（モスクワ）

特集

社会保障機関は、この数十年に渡り、サービスのデジタル変革を推進してきましたが、コロナ禍はこの傾向をさらに加速させました。昨年ISSAは、ISSA 会員間のグッドプラクティス収集と共有を重視し、社会保障における手続きとサービスのデジタル化に関する国際的なパートナーシップを強化しました。

社会保障における デジタルトランスフォーメーションの推進

ISSA はパンデミックの初期段階において、電子サービス、モバイルサービス、社会保障機関のデータ共有サービスなど、デジタルチャネルの普及が進んでいることをまとめました。デジタルチャネルを通して受けられる給付金やサービスが増えただけでなく、ロックダウン措置によって受給者がデジタルプラットフォームに移行したことを受け、社会保障機関はこうした移行をさらに促進するための広告キャンペーンを実施しました。

ヒューマン・デジタルリアリティ

この 1 年で、ヒューマン・デジタル時代への移行は急激に加速しました。ISSA の加盟機関がさまざまなウェビナーで実証してきたように、ヒューマンスキルとデジタル技術の融合は、もはや社会保障における義務となっています。ヒューマン・デジタルリアリティは、内部での連携と外部の利用者とのやり取りという 2 つの次元から生まれました。

内部的には、新型コロナウイルス感染症拡大により多くの社会保障機関がテレワークに突然移行したことで、組織内の連携がオンラインで行われるようになりました。対外的には、利用者との対面でのやり取りが困難もしくは不可能になってしまったため、デジタルチャネルでの接触が主流になりました。人工知能やビッグデータの活用により、プロセスの自動化、デジタル化も進みました。

ヒューマン・デジタルリアリティの直接的なメリットは、より多くの人に迅速にサービスを届けられるということです。一方で、職員と利用者の双方に、デジタルツールを使いこなす能力が求められることには注意すべきでしょう。

デジタルインクルージョン

コロナ禍でのサービス提供と適用拡大戦略の核となったのは、デジタルソリューションです。しかし、社会保障サービスのデジタル化や、適用が困難な集団への適用を試みる場合は、一部の人々を排除しないためにも、デジタルリテラシーとデジタルインクルージョンの問題を考慮すべきです。

デジタルインクルージョンに関するウェビナーシリーズを通じ、ISSA の加盟機関はこの分野におけるグッドプラクティスを共有しました。アクセシビリティの確保は、どのようなアプローチにおいても重要な要素の一つであり、社会保障機関は、携帯やインターネットのインフラや普及率を考慮しながら、革新的かつ実用的なソリューションを実施しています。

また、社会保障機関は、ヒューマン・デジタル環境で作業するための準備段階として、職員の継続的な再教育とスキルアップに力を入れています。

国際的パートナーシップ

ISSA にとっては、社会保障制度の重要分野をリードする国際的な専門機関と提携することが不可欠です。特に、国連大学政策主導型電子ガバナンスに関するオペレーティング・ユニット（UNU-EGOV）や国際電気通信連合（ITU）とのパートナーシップは実り多いものでした。この 2 つの組織と ISSA は、テクノロジーを戦略的に活用して公共のガバナンスとサービスを変革し、改善するという点で、優先項目と目標が一致しています。

いずれの組織も、それぞれの専門分野で ISSA にナレッジを提供しています。ITU はサイバーセキュリティ、UNU-EGOV は公共サービスのデジタル化に重点を置いています。UNU-EGOV は、デジタルインクルージョンに関するウェビナーシリーズなど、今年 ISSA が開催したさまざまなバーチャルイベントに協力しています。

ICT バーチャルシンポジウム

ICT 技術に関する ISSA バーチャルシンポジウムでは、新型コロナウイルス対応に活用された、社会保障サービスにおける ICT の力を強調しました。

現実となりつつあるヒューマン・デジタル

2021年1月に開催された、社会保障のリーダーシップに関する ISSA バーチャルシンポジウムでは、社会保障におけるヒューマン・デジタルモデルへの変革を紹介しました。

テクノロジーとデジタル化に関するウェブセミナー

ISSA は、全地域の ISSA 加盟機関の実践を活用し、人工知能やブロックチェーンなどの最新テクノロジー、さらにはデジタルインクルージョンに関するウェビナーを開催しました。

人気の高い ICT ガイドライン

ICT に関する ISSA ガイドラインは、13 種類ある ISSA の社会保障運営ガイドラインの中で、最も閲覧数が多いガイドラインです。

ISSA オンラインイベントと活動

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ISSA はすべてのイベントと活動をバーチャル化しました。ウェビナー、地域・技術イベント、役員会議等がオンラインで開催されているほか、ISSA のディプロマプログラムは e-ラーニング形式で提供されており、新しい e-ワークショップのコンセプトが開発され、試験的に実施されています。

イラン社会保障機関
ホセイン・モシリ・タブリジ氏

マレーシア社会保障機構
モハマド・アズマン・ビン・アジズ氏

世界保健機関(WHO)
ジーア・ハン氏

バーチャル化

この 1 年で、ISSA のすべての活動やイベントがオンラインで行われるようになり、開催される件数も増えました。ISSA では例年 50 件程度のイベントを開催していますが、2020年は 80 件近く開催されました。

週次ウェビナー

2020年4月に始まった ISSA のウェビナーは、すぐに大きな反響を呼びました。ISSA は、毎週 1 回ウェビナーを開催していましたが、会員から寄せられた関心事をテーマにしたものがほとんどです。2020年のウェビナー登録数は、7,500 件以上を記録しました。ISSA イベントに初登録した加盟機関の職員数は、2,200 名以上に上ります。

当初は、新型コロナウイルス関連のウェビナーシリーズが主流でしたが、徐々に他の分野にもテーマが広がりました。介護やデジタル化をテーマにしたシリーズのほか、特別な CEO 円卓会議シリーズも始まりました。ISSA の技術委員会や地域組織と協力して、さまざまなウェビナーが開催されました。すべてのウェビナーは録画のうえ、ISSA ウェブサイトで会員向けに公開されています。

国際・地域的なバーチャルイベント

ISSA は、2020年12月の南北アメリカ地域の社会保障サミット、2021年1月の社会保障リーダーシップシンポジウム（LEAD2021）、2021年5月の ICT シンポジウム（ICT2021）などの大規模なバーチャルイベントを開催しました。

「地域ウェビナーは、ISSA の崇高な目標に沿った中央アフリカの社会保障の発展に不可欠な、希少な活力源のようなものです。」

中央アフリカ連絡事務所、コンゴ民主共和国国民社会保障基金
ティグイ・エレベ・モティンギヤ氏

欧州委員会
ダナ=カーメン・バックマン氏

国際社会保障協会（ISSA）
マルセロ・アビラミア・カエタノ

国際労働機関（ILO）
シャーラショウブ・ラザヴィ氏

LEAD2021では、リーダーシップ、デジタル化、行動洞察をテーマに、社会保障分野におけるヒューマン・デジタルモデルへの移行を取り上げました。ICT2021 では、新型コロナウイルス対策における ICT の活用をテーマに掲げ、コロナ禍によって社会保障分野でのデジタル化が促進された事例を紹介しました。LEAD2021 は、ISSA の組織・経営・革新に関する技術委員会と、インドネシアの医療部門の社会保障管理機関の協力を得て開催されました。ICT2021 は、エストニア国民社会保険庁の協力を得て開催されました。

また、第22回世界労働安全衛生会議は2021年9月に延期されましたが、2020年10月には代わりにオンライン形式の会議が開催されました。これらの会議は、ILO の協力を得て、カナダ労働衛生研究所とカナダ労働安全衛生センターが主催しています。

eラーニングと eワークショップ

ISSA のディプロマプログラムは、トレーニングパートナーの協力を得て、対面式から革新的なオンラインコースへと移行しました。EN3S、ITC-ILO、ムハンナ財団は、社会保障運営に関する ISSA ガイドラインに基づいた eラーニングコースを、それぞれフランス語、英語、アラビア語で提供しました。2020年12月には、社会保障制度におけるエラー、回避及び不正に関する e-ワークショップが試験実施され、新しい e-ワークショッププログラムのモデルとして、成功を収めました。

執行会議及び技術会議

2020年10月の第 121 回 ISSA 役員会議は、史上初のバーチャル開催となり、翌2021年6月には 2 回目のバーチャル会議が実施されました。2021年6月の第 15 回 ISSA 技術委員会フォーラムは、2 回目のバーチャル開催となりました。革新的なアプローチを導入し、2 週間にわたりさまざまな技術的および分野横断的な会議が開催され、合同閉会セッションで幕を閉じました。ISSA 技術委員会の任務の一つは、ISSA ガイドラインの改定と、2022年に向けた新たなガイドラインの策定です。

2020年のバーチャルイベント
参加登録者数

7,500 名以上

「これは学びの機会であり、ナレッジ、運営情報、グッドプラクティスを交換する場です。取り上げたテーマは、各機関の能力や機能を強化し、そのメリットは関連機関にも波及するはずです。」

グアテマラ社会保障機関本部長
アナ・マリリン・オルティス・ルイス・デ・フアレス氏

特集

費用が適当かつ質の高い医療・介護へのアクセスは、この数年の社会保障分野における最重要課題の一つに挙げられます。高齢化社会では、保障適用、医療、リハビリテーション、介護が密接に関係しています。これらの要素は、3 年計画における ISSA の優先項目の核となるものです。

医療・衛生、介護ケア、リハビリテーション

ウェビナー、技術レポート、論文などを通じて、ISSA は健康・医療面に関する多くの実践を共有しようと働きかけてきました。その目的は、メンバーが互いに刺激を受け、学び、ソリューションを見出すことです。活動の大部分は、医療制度の復旧力、遠隔医療（e-Health）、デジタルソリューションの革新的な利用、コロナウイルス関連事項に重点を置いています。その他、高齢化社会、介護ケア、変化する高齢者のニーズを取り上げたものもあります。

リハビリテーションの重要性

ISSA は、リハビリテーションに関する特別作業部会を設置しました。労災、医療、雇用、傷病手当に関係するリハビリテーションの学際的な内容が契機となり、2019年10月の世界社会保障フォーラムで同部会の創設が発表されました。この部会は、労働市場の参加拡大、活動的な生活、アクティブエイジングをテーマとした積極的な活動計画を実施しており、ISSA 技術委員会にも情報を提供しています。また、コロナ禍の観点から、新型コロナウイルス感染から回復した患者のリハビリテーションにも注目します。

ウイルス感染から回復しても、元の生活に戻り、完全に仕事復帰できるとは限りません。比較的軽い症状から深刻な重症、さらに死に至るケースまで、症状も個人差が大きいのです。専門家の間では、長期的な影響を懸念する声も聞かれます。高齢者や基礎疾患のある人はリスクが高く、重症化し回復まで時間がかかるケースも珍しくありません。コロナ禍においては、数百万人もの感染者が元の生活に戻り、仕事に復帰するためのリハビリテーションの重要性が浮上してきました。

リハビリテーションに関する ISSA 特別作業部会

リハビリテーションに関する ISSA 特別作業部会は、オーストリア、アゼルバイジャン、ベルギー、カナダ、フィンランド、ドイツ、インドネシア、韓国、マレーシア、メキシコ、ナイジェリア、イギリスの ISSA 加盟機関で構成されています。

医療制度

ISSA 会員の中で健康・衛生分野に対する関心が高まっているのを受け、ウェビナーや記事では、レジリエンスのある医療制度の構築、無医村での医療に対する取り組み、健康保険制度の適用拡大とサービスの質の向上などの問題を取り上げてきました。さらに、遠隔医療といった ICT の応用は、医療制度を改善するための戦略的ツールとして注目されており、これも ISSA の情報通信技術に関するガイドラインで取り上げられています。

介護ケアに関するウェビナーシリーズ

ISSA は、国際的な戦略や対策、分野・地域別のアプローチを追求するため、介護ケアに関するウェビナーシリーズを開始しました。

介護とアクティブエイジング

高齢化社会の高まるニーズへの対応は、2020年から2022年の3年の事業期において ISSA が掲げる 4 つの優先項目のうちの一つです。高齢化は、世界各国における重要課題で、世界の社会保障制度はこの現実に適応する必要があります。長寿化に伴い、可能な限り健康で活動的、かつ自立した生活を送りたいと考える人が増えています。同時に、長期の介護を必要とする人も増え、システムの整備、専門人材や財源の確保、そして利用者のニーズに合わせたサービスの提供が求められています。つまり、社会保障機関は、適切なサービスで対応するため、体制を整えておく必要があるのです。

2019年11月、ISSA は EC、ILO、OECD、WHO の協力を得て、介護ケアに関する新しいウェビナーシリーズを開始しました。各機関がそれぞれ、研究調査の結果や介護に対する喫緊のニーズに関する国際的な戦略・対策を発表しました。続いて各地域の ISSA 会員によるウェビナーが開催され、様々な視点による介護ケア関連の経験を共有しました。

ウェビナー：イノベーション、医療、新型コロナウイルス

ISSA は、医療保険適用、新型コロナウイルス感染症、イノベーション、デジタル技術の活用などをテーマに、さまざまなウェビナーを開催しました。

グッドプラクティス賞コンテストとバーチャルサミット

2020年12月3日に開催された南北アメリカ地域 ISSA バーチャルサミットの会期中、南北アメリカ地域グッドプラクティス賞コンテストでカナダ雇用社会開発省がグッドプラクティス賞を受賞したことが発表されました。

南北アメリカ地域における優れた功績の称賛

カナダ雇用社会開発省は、『サービストランスフォーメーション：デザイン思考とアクセラレーションハブ』の事業で2020年南北アメリカ地域グッドプラクティス賞を受賞しました。これは、サービス提供の改善のために全体的なアプローチを取っているグッドプラクティスです。カナダ雇用社会開発省は、没入型のデザイン思考プロセスと俊敏で再現可能なデザイン手法により、職員、利用者、協力者から革新的なアイデアを集め、利用者中心のサービスソリューションに転換しました。

記録的応募数

ISSA グッドプラクティス賞コンテストは3年ごとに各地域で開催され、社会保障分野における優れた功績を表彰します。2020年の南北アメリカ地域コンテストでは、中米、北米、南米やカリブ海地域から、過去最多となる 138 件の応募がありました。これらはすべて、ISSAグッドプラクティスデータベースに掲載されています。

この地域コンテストはコロナ禍で開催されましたが、グッドプラクティスを共有し、互いに学び、社会における社会保障の役割向上を望むISSA 会員の強い意志が、記録的な応募数に表れています。応募されたグッドプラクティスの中には、新型コロナウイルス対策に重点を置いたものも数多くありました。

バーチャルサミットにおけるグッドプラクティス共有

南北アメリカ地域のバーチャルサミットは、「ニューノーマルを目指して: 課題と機会」というテーマで開催され、ISSA 加盟機関から 500 人以上の社会保障担当者がイベントに登録しました。

当然ながら、このイベントのメインテーマは新型コロナウイルスで、実施された対策、社会保障機関や制度への長期的な影響を中心に議論を行いました。このほか、コロナ禍における適用拡大、地域における男女間等の格差、社会保障の革新とデジタ

数字で見る南北アメリカ地域グッドプラクティス賞コンテスト

- 138 事業の応募
- 30機関
- 18 か国

ル化の加速などのテーマが取り上げられました。

地域の ISSA 会員の実体験やグッドプラクティスに加え、ILO、OECD、国連社会開発研究所（UNRISD）、国連大学からの参加もあり、充実したプレゼンテーションとディスカッションが行われました。

コロナ禍において進められた急速なデジタル化は、事業継続やサービス提供だけでなく、サービス改善の可能性など、形勢を一転させる「ゲームチェンジャー」と認識されました。デジタルソリューションによって適用拡大を促進するものの、適用困難集団への適用やジェンダー平等を実現するには、やるべきことはまだ更にあります。

バーチャルサミットは、コロナ禍の影響で2021年12月に延期開催される地域社会保障フォーラムに先駆けて、コスタリカ社会保険基金の協力のもとで開催されました。このイベントは録画され、ISSA のウェブサイトで会員向けに公開されています。

アフリカ地域グッドプラクティス賞コンテスト

2020年に開催されたアフリカ地域グッドプラクティス賞コンテストには27か国の36 機関から 97 件の応募があり、過去最高の応募数を記録しました。

受賞事業は、2021年後半にバーチャル形式で開催される、アフリカ地域社会保障フォーラムで発表されます。

「地域全体から質の高い、優れたグッドプラクティスが集まりました。カナダ雇用社会開発省が南北アメリカ地域の ISSA グッドプラクティス賞を受賞したことを祝福します。」

ISSA 事務総長　マルセロ・アビラミア・カエタノ

労働安全衛生

ソーシャルディスタンス、マスク着用、手指消毒剤、飛沫防止ガラス、テレワークなど、職場においても新型コロナウイルスの感染予防対策が最優先されています。

コロナ禍での予防

新型コロナウイルス感染症が瞬く間に世界中に広がり、当局機関や企業が対応に追われる中、かつてないスピードで感染防止対策が導入されました。ソーシャルディスタンスが新しい流行語になり、一夜にして、手指消毒剤とマスクが常備されるようになりました。テレワークが普及し、買い物や各種サービスなど、対面で接客する場所には、飛沫防止ガラスの設置が当たり前になりました。

2020年10月に開催された世界労災デジタル会議では、新型コロナウイルスの感染拡大への労働安全衛生対策に重点が置かれ、この分野のイノベーションが大きく前進したと発表されました。デジタル会議の一環として、ISSAは労災保険に関する世界フォーラムを開催しました。ISSA労災保険技術委員会の委員長のドイツ法定災害保険のステファン・ハッシー氏は、この勢いのまま、職場における労働安全衛生のエコシステムを構築する必要性を強調しました。同フォーラムはロシア連邦社会保険基金が主催しました。

職場での感染予防対策

ISSA 予防特別委員会は、労災保険分掌機関が共有できるよう、職場におけるコロナ感染拡大予防対策リストを発表しました。

コロナ予防モニター

ISSA コロナ予防モニターでは、新型コロナウイルス予防に関する世界各国のメディア発信ニュースや分析記事を紹介しています。これは、オーストリア労働者災害補償委員会が、ISSA 予防特別委員会および 14 の国際予防部門と協力して行ったものです。

「新型コロナウイルスの発生によって、テレワークなどの新しい働き方、新しいライフスタイル、ソーシャルディスタンスが定着しました。」

ISSA 事務総長　マルセロ・アビラミア・カエタノ

VISION ZERO
Safety.Health.Wellbeing.

職場における安全、健康、幸福を守るビジョンゼロ戦略は、ISSA と英国安全衛生協会(IOSH)が提携したビジョンゼロ認定トレーニングプログラムの始動により、確実な第一歩を踏み出しました。

ビジョンゼロ認定トレーニングプログラム

ビジョンゼロは、事故や業務上疾病のない職場を目指す機関、企業、労働安全衛生トレーナーのコミュニティによって構築されたものです。トレーナーは職場の労災防止体制において重要な役割を果たすため、ビジョンゼロ認定トレーニングプログラムの始動は重要なステップと言えるでしょう。

2020年10月からは、ISSA と IOSH が締結したパートナーシップ協定に基づいて、IOSH が新しいプログラムを提供します。IOSH は、職場での安全、健康、幸福を守る人々のための世界有数の公認専門機関です。

ビジョンゼロ認定トレーニングプログラムは、2020年10月5日、世界労災デジタル会議で発表されました。1,200人以上のビジョンゼロトレーナーが招待され、プログラム（実績要件を満たせば、誰でも参加可能）に参加しました。

数字で見る ビジョンゼロ

- 企業数 10,300
- パートナー 3,500
- トレーナー 1,300名

ビジョンゼロ・デジタル

2021年3月から始まったビジョンゼロ・デジタルの展開は、今年の重要な出来事のうちの一つです。これは、労働安全、健康、幸福、環境保護の分野の専門家が集まる独自のオンラインプラットフォームです。このプラットフォームは、通常の交流ツールを拡張したものであり、独自の資料、ネットワーキング、個人アカウント、チャット、投票など、さまざまな機能を備えています。

「私たちは共に労災防止の大義名分を推進し、より安全で健康的な職場を作るという共通のビジョンを達成します。」

IOSH 最高責任者　ベヴ・メッシンガー氏

インタビュー

フランス自営業者社会保護協議会(CPSTI)ディレクター　エリック・ル・ボン氏

フランスの新会員

2020年後半、新たに 6 つの社会保障機関が ISSA に加盟しました。その中には、フランスの CPSTI も含まれています。ISSA は、CPSTI が ISSA への加入を決めた理由、加盟で得られるメリットを、ディレクターのエリック・ル・ボン氏にインタビューしました。

CPSTI の主な役割と業務内容について教えてください。

フランス国内で CPSTI は以下のような業務をしています。

- 保険料の徴収と給付を担当する機関が、自営業者の社会保護に関連する規則を正しく適用し、質の高いサービスを提供していることの確認
- 特に自営業者に向けた、健康・社会活動のための一般的なガイドラインの作成
- 自営業者の老齢補足年金や死亡・疾病給付制度の運営、関連資産の運用

また、自営業者の社会的保護に関する立法・規制上の改正案を社会保障担当大臣に提出することも、大臣がCPSTI に諮問することもできます。

ISSA に加入した理由は何でしょうか。

当機関は、自営業者向け社会保障制度の廃止に伴い2019年1月1日に創設されたもので、国際的な代表としての立場を受け継いでいます。CPSTI のソフィー・デュプレ会長と私は、世界の社会保障機関の活動を比較することの価値や、社会保護の普遍的な側面の重要性を確信しています。

CPSTI ディレクター
エリック・ル・ボン氏

ISSA の活動やサービスで、CPSTI に最も関連性のあるものは何ですか。また、どの活動に参加する予定ですか。

柔軟で即応性のある体制の下、CPSTI のアドバイザーと職員は、専門知識と今後の予測という分野における自営業者の社会的保護に関するテーマ別のネットワーク作りに注力しています。世界的なコロナ危機が発生し、デジタルプラットフォームワークや小規模企業などの新しい形の自営業が増えたことで、こうしたニーズは切迫したものになっています。

インタビュー

2021年3月、英語圏カリブ諸国にISSA フォーカルポイントが設立されました。ISSA コミュニティにおける 18 番目の地域組織に当たります。このフォーカルポイントを統括するのは、セントビンセント及びグレナディーン諸島国民保険機構のディレクター、スチュワート・ヘインズ氏です。ISSA では、新しい任務について、ヘインズ氏にインタビューを行いました。

カリブ海地域
新設フォーカルポイント

この地域にフォーカルポイントを設置する理由を教えてください。

当地域の社会保障は、制度の運営と持続可能性に関して、多くの課題を抱えています。今回の ISSA とのパートナー提携は、これらの課題を正確に把握し対処するための、ガバナンス、運営、組織の能力強化に不可欠だと認識しています。

セントビンセント及びグレナディーン諸島国民保険機構が、英語圏カリブ諸国のフォーカルポイントを担当することになった経緯を教えてください。

私は、英語圏カリブ諸国の社会保障機関を代表する ISSA 役員会メンバーとして、フォーカルポイントの大きなメリットを直接知り、経験しています。そこで、実用的なナレッジ、幅広いネットワーク、活動、成果物、サービスへのアクセスを向上させるべく、地域のシステムを整備したいと考えました。

フォーカルポイント所長
スチュワート・ヘインズ氏

この地域の社会保障制度の類似点、そして相違点は何だと思いますか。

この地域の制度で共通している点と言えば、小規模な開放経済にもとづいて運用されており、自然災害を含む外的ショックに弱いことと、自営業者やインフォーマルセクター労働者への社会保護提供という大きな課題に直面していることが挙げられます。大きな違いと言えば、行政やガバナンスの慣行でしょう。

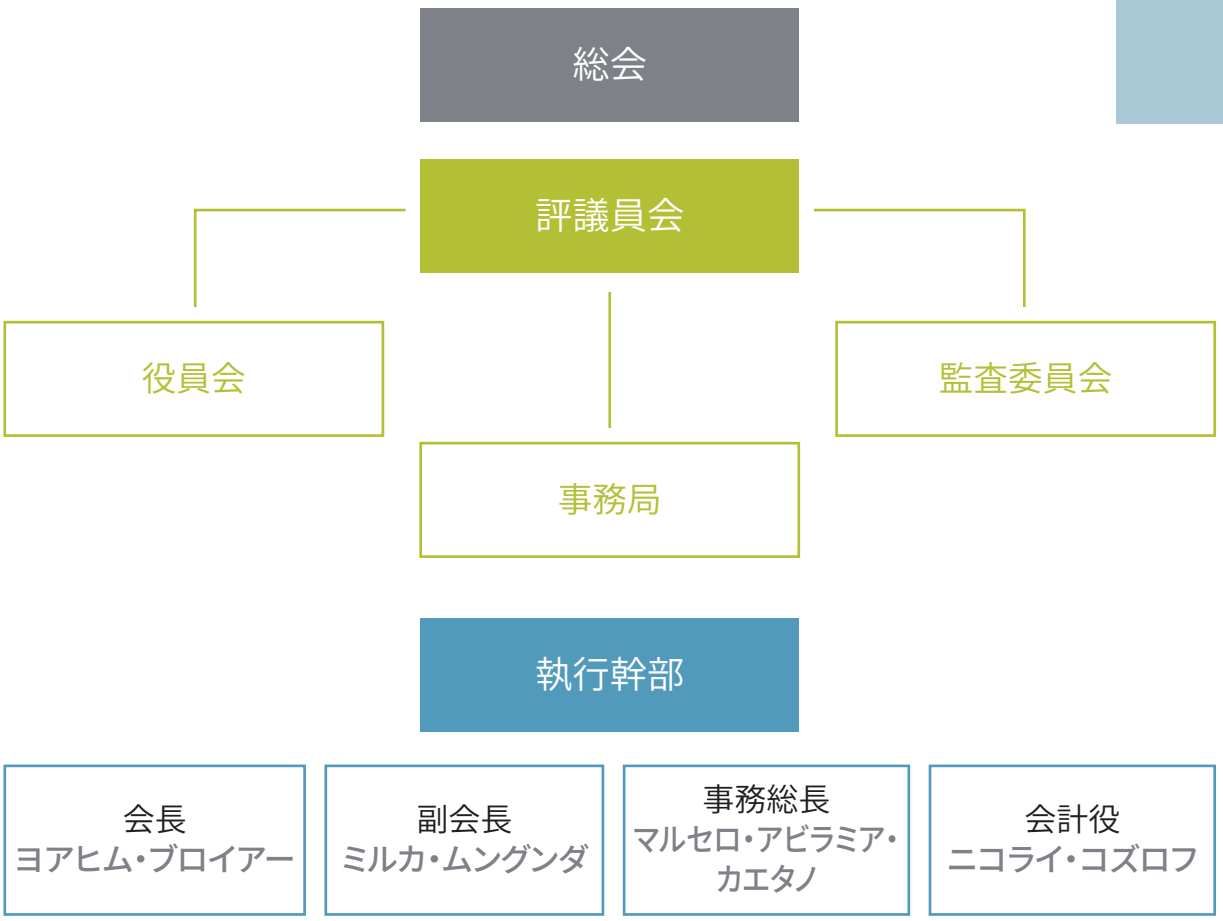
今後のフォーカルポイントの主な活動内容を教えていただけますか。

カリブ共同体(CARICOM)事務局が主催する次回の地域社会保障制度責任者会議で表明やプレゼンテーションを行うほか、重要分野に関するワークショップやウェビナー、個々の社会保障制度のニーズ評価を行い、それを地域の活動計画に反映させていく予定です。

ISSA

ISSA のガバナンスと技術的な業務はすべて会員の貢献と専門的知見によって成り立っています。ISSA 事務局は42 名の職員と加盟機関からの複数の派遣職員で構成されています。

組織体制とガバナンス



ISSA 技術委員会

ISSA には 13 の技術委員会があり、加盟機関のナレッジや専門的な情報を収集し、世界の社会保障機関運営者や専門家コミュニティに役立つ成果物やサービスを提供しています。2021年6月、第 15 回 ISSA 技術委員会フォーラムでは、すべての技術委員会が一同に集いました。

ISSA ガイドラインの策定

技術委員会は2022年末を目安に、以下の ISSA ガイドラインを改定する予定です。

- 社会保障の数理業務
- 適用拡大のための運営上の解決方法
- 社会保障運営によるコミュニケーション
- 情報通信技術

また、以下のテーマの新しいガイドラインも策定中です。

- 事業継続と復旧力
- 人材管理

13 の ISSA 技術委員会の各分野担当

- 保険料徴収、納付義務遵守
- 雇用政策、失業保険
- 家族給付
- 情報通信技術
- 労災保険
- 社会保障基金の投資
- 医療、疾病保険
- 共済給付組合
- 老齢、障害、遺族保険
- 組織、運営管理、革新
- 社会保障政策分析、研究
- 統計、数理、財政研究
- 予防特別委員会

特別作業部会（2団体）

- リハビリテーション
- 国際的なデータ交換

ISSA 国際予防部門

予防特別委員会は、14 の国際予防部門で構成され、職場の労災予防分野において共同活動を行っています。

- 農業
- 化学工業
- 建設業
- 予防、防災文化
- 教育とトレーニング
- 電気、ガス、水道
- 医療、衛生サービス
- 情報
- 鉄鋼、金属産業
- 機械とシステムの安全性
- 鉱業
- リサーチ
- 貿易
- 交通、輸送

ISSA のナレッジとサービスの品質向上

この 1 年間、ISSA は会員に提供する成果物やサービスの品質向上・刷新を行ってきました。新型コロナウイルスの感染拡大によって、社会保障に注目が集まり、定期的な状況分析、情報共有、相互学習活動へのニーズが高まっています。

バーチャルサミットとシンポジウム

南北アメリカ地域サミット、社会保障のリーダーシップに関する ISSA シンポジウム、ICT に関するシンポジウムは、対面会議が開催可能になるまでの代替イベントとして、質の高い内容をバーチャルで提供しました。

ウェビナー

2020年4月の第 1 回目以降、ISSAは 90 件近くのウェビナーやオンラインイベントを開催してきました。内容はすべて録画され、ISSA のウェブサイトで会員向けに公開されています。

バーチャルな二国間提携

ISSA は要請に応じて、二国間会議や協力を円滑に進めるサポートを実施します。

週次分析

ISSA は、社会保障分野におけるグッドプラクティス、動向、展開を分析し、ウェブサイトで毎週公開しています。

新しいMy ISSA

ISSA の会員専用スペースは、パーソナライズされたダッシュボードのほか、共有、ネットワーキング、協働のためのオンラインスペースを備えています。

新カントリープロファイル

2020年7月、ISSA はオンラインデータベースの大改定を実施しました。社会保障に関する184の国と地域のプロファイルを網羅し、社会保障協定に関する情報も組み込まれています。

eワークショップ

ISSA は、バーチャルな環境で議論・交流し、問題解決に導く新たなeワークショッププログラムを展開しました。

eラーニング

ISSA のディプロマプログラムコースは、英語、アラビア語、フランス語に対応し、ISSA のトレーニングパートナーが提供するオンラインプラットフォームで受講できます。

地域組織

地域組織は、各サービスの調整や ISSA ウェビナーの開催に携わっています。ISSA は、英語圏カリブ海地域に新たな地域組織を開設しました。

コロナウイルス感染症対応モニター

オンラインのコロナウイルス感染症対応モニターは、40,000 件を超える閲覧数を記録しています。主な内容は以下のとおりです。

- 各国の施策
- 分析
- ニュース
- ウェビナー
- 他の情報源へのリンク

ナレッジとリソース

新たなウェブサイト

2020年7月、新たな ISSA ウェブサイトへの移行が完了し、ISSAカントリープロファイルが新しくなりました。ISSAは、ユーザーエクスペリエンスをさらに向上させるための開発に取り組んでいます。パーソナライズされた新たなMy ISSA、成果物やサービスへの簡単なアクセス、検索・フィルタリング機能の改良、携帯やタブレットへの対応なども実装されました。

www.issa.int

分析と出版物

ISSA は、社会保障の主要なトレンドや動向の分析を毎週公開しています。ISSA のウェビナーで共有された実践、加盟機関から提供されたグッドプラクティスは、貴重な情報源として記事作成に活用されています。また、2021年6月に開催される ISSA 技術委員会フォーラムに向けて、社会保障協定と介護ケアに関する報告書の草案を作成しました。

www.issa.int/analysis / www.issa.int/publications

ISSA ガイドライン

ISSA ガイドラインは、社会保障運営の主要分野における国際的な取組やナレッジを簡潔かつ実践的に説明したものです。ガイドラインの内容は、ISSA 加盟機関の経験に基づいて構成されています。ガイドラインは、ISSA 技術委員会の協議により作成され、定期的に更新されています。現在、事業継続と人材管理の分野に関する新たなガイドラインを策定中です。

www.issa.int/guidelines

社会保障におけるグッドプラクティス

オンラインの ISSA グッドプラクティスデータベースには、加盟機関から寄せられた 1,000 件以上のグッドプラクティスが掲載されています。これは、ISSA 加盟機関向けのナレッジと経験を集めた、他に類のない情報源です。2020年に開催された各地域の ISSA グッドプラクティス賞コンテストでは、アフリカ地域や南北アメリカ地域から、200 件以上の新たなグッドプラクティス応募がありました。

www.issa.int/gp

ISSA カントリープロファイル

新たなオンライン上の ISSA カントリープロファイルには、184 の国と地域における社会保障制度とプログラム概要が掲載され、簡単に閲覧・比較できるようになっています。アジア・太平洋、アフリカ、南北アメリカ、ヨーロッパの地域ごとに定期的に更新され、各国の社会保障プログラムの概要をチェックすることができます。

www.issa.int/country-profiles

国際社会保障レビュー

1948年に創刊された国際社会保障レビュー（ISSR）は、社会保障分野において世界的に重要な刊行物であり、四半期ごとに出版されます。2020～2021年では計 4 冊が発行されますが、2020年特別号は「社会保障、包括的な成長、社会的連帯」、2021年特別号は「中華人民共和国における社会保障の適用拡大」を特集しています。ISSA 会員は無料で閲覧できます。

www.issa.int/review

Excellence in social security
Excellence en sécurité sociale
Excelencia en la seguridad social
Excelência em seguridade social
Exzellenz in der sozialen Sicherheit
Высокие стандарты управления в социальном обеспечении
التميّز في الضمان الإجتماعي
卓越的社会保障

ISSA 事務局

Route des Morillons 4
Case postale 1
CH-1211 Geneva 22
T: +41 22 799 66 17
F: +41 22 799 85 09
E: issa@ilo.org

www.issa.int